

言葉の務め

1. 聖霊の働き (ヨハネ 14、16章)

イエスは父にお願いし、父は聖霊を私たちの内側に遣わし、永遠に共にいるようにしてください (16節)

この霊は真理の霊であり、私たちのうちにおられる (17節)

イエスは弟子たちをみなしごにはされない。弟子たちに戻ってくる (18節)
世はイエスを見なくなるが、弟子たちをイエスを見、イエスが生きるので、弟子たちも生きる (19節)

かの日にはイエスは父のうちおられ、弟子たちがイエスのうちにおり、イエスも弟子たちのうちにいる (20節)

聖霊は私たちにすべてを教え、イエスが話した言葉をことごとく思い起こさせてくださる (27節)

イエスが行けば弁護者が来られる。イエスは弁護者を送られる (16:7)

罪と義と裁きについて明らかにされる (8節)

- ・ 罪とはキリストを信じないこと
- ・ 義とはキリストが父の元に行くこと
- ・ 裁きとはこの世の君が裁かれること

真理の霊は弟子たちを導いてあらゆる真理をさとらせる。その方は自分から語るのではなく、聞いたままを語り、これから起こることを語る (13節)

真理の霊はイエスを栄光化する。イエスのものを受けて、弟子たちに与える (14節)

イエスのものは父からのもの (15節)

2. 時代の霊 (アイオーン) と真理の霊

時代の霊はイエスを貶めるが、真理の霊はイエスを栄光化する。例: ダ・ヴィンチ・コード、ユダの福音書

時代の霊は自己を高揚するが、真理の霊はイエスを高くする (ルカ9:22,23)。

時代の霊は肉の欲・目の欲・暮らし向きの自慢を煽るが、真理の霊は自己を否む (ヨハネ2:16)。

時代の霊は御子の証を否定するが、真理の霊は御子を証する (ヨハネ15:26,27; 1ヨハネ5:8,10)。

時代の霊は滅びへと招くが、真理の霊は御子の内にある永遠のいのちへと招く (同5:11)